



▲9月22日～10月4日、東急百貨店を中心に渋谷エリアで開催

なにわのパワー炸裂！
『大・大阪博覧会』の準備は、すでに昨年から始まっていた。「ほんまに実現するんかいな？」と案じつつ企画を練る。東急百貨店から上根部長を招き開催した二月例会「ほんまもんの大阪再発見！」でいよいよ実質スタート。それから七ヶ月余り、ほんまかいな：の不安を吹き飛ばして、万雷の拍手とともに大成

功を収めた。通天閣から初見
合企画担当として、なにわ名物開発研究会を大いにアピールした『大・大阪博覧会』となった。
文／代表幹事
(株)せのや 野萩育郎

大阪のおばちゃん
渋谷を駆ける
老舗の品々と一緒させて
いただいた新参者の「きつと勝つサンド」。厨房がある東急本店から会場の東急東横店まで約一キロの道玄坂を、1日4回台車を押して疾走する私の姿は、東京の人々の目にどう映っただろう。なにわともあれ、自分出来る仕事量と体力の限界に挑戦した有意義な一週間だった。「きつと、勝つサンド」に老舗の品位が加味されるのはいつの日か！
文／ベラ・グラツイエ
辰巳弘子

「なにわうまいもん市」
開店と同時にドツと行列が延びて行く凄まじい1週間。豚饅、お好み焼、オムライス、うどん、どの店も行列が絶えない。東京の人たちの「なにわの食文化」への関心の高さを再認識した。大阪のフアストフード「粉もん」が、渋谷の若者に合ったのか、伝統ある押し寿司や昆布が東急沿線のハイソな人の心をくすぐったのか、とにかく老若男女が押し寄せた。売る側も、疲労で職人が倒れる、加熱で器械が壊れる、商品の供給が遅れるなど、バタバタ劇もあったが、全国初の『大・大阪博覧会』は大成功。これを東京人が仕掛けたとは……。しかも催事場だけの「点」ではなく、渋谷のまち全体という「面」での展開。大阪も個人プレーではなく、組織力や連携で物事を進めなければと痛感した。
文／(株)ヤマカワ
山川謙治

「大・大阪博覧会」大成功 ほんまもんの大阪が、東京を席捲！

特別寄稿 大・大阪博覧会へ「いらっしゃ〜い！」

大・大阪博覧会実行委員長 株東急百貨店 営業推進室販売促進部部长 上根弘之

桂三枝師匠の決めゼリフで、9月22日(木)10時に渋谷駅東横店の『なにわうまいもん市』、11時に本店の『栄光のナニワ歴史展』が幕を開けました。この二つの催しを中心に渋谷を大阪にしてしまおうという前代未聞の企画を開催するに至った経緯は、若者の街渋谷に大人のお客様を呼ぶために、他で実施していない面白い企画がないかという漠然としたイメージを持ったことからでした。
そのうち京都・博多等は各地で物産展が行われているのに、何故か大阪を取り上げた催しがほとんど実施されていないことに疑問を抱き、実際に大阪に足を運び、なにわ名物開発研究会を始め様々な方の協力や教えをいただき、文化や歴史面でも十分に魅力のある街であることを再認識致しました。同時に是非とも東京の方々に「本物の大阪」を紹介しなければという使命感が芽生え、開催にこぎつけた訳です。一つ一つが手作りでの難産ではありましたが、大阪の皆様のご理解と愛を情熱と商人魂が今回の成功に導いてくれたと確信し、改めて感謝申し上げます。



なにわ名物 開発研究会 NEWS

＜第18号＞
2005年12月1日発行
発行
なにわ名物開発研究会
編集 広報部



●本部
大阪市中央区難波1-7-2
SENOYAビル3F
TEL・FAX (06)6213-5554
http://www.naniwa-meibutsu.com/
●事務局(会議や諸事連絡)
大阪市中央区本町橋2-23
第七松屋ビル1231
TEL (06) 6947-5260
FAX (06) 6947-5254

入会について
■入会金■
10,000円 (正会員)
5,000円 (協力会員)
■年会費■
36,000円 (正会員)
12,000円 (協力会員)



第8回 なにわ大賞 贈呈式 2005.7.28

第8回 なにわ大賞 贈呈式

もていさき 2005.7.28

連休ボケも醒めやらぬ、5月12日の金曜日。野村代表から「今晩7時せのや3階で待ってます」の連絡。なんぞ奢ってもらえるんやろか？ スケベ心で覗いた午後7時15分。森一貫センセと代表が、奥で手招き。「何ですのん？」の問いかけに、「新任幹事の登竜門、なにわ大賞チームリーダーを担当しなさい」と、天の一言。なにわ大賞ちゅうたら、毎年リーダーがメレンゲになる部署ちゃいますのん？ 固辞する私に「あんたならできる！」のお言葉…。謹んで拝命させていただきました。

- 大賞 からほり倶楽部 (長屋再生・まちアート・直木三十五記念館)
- 準大賞 福澤幸雄 (ハイゴマ遊びの普及) 村西 徳子 (伝統藍染・河内木綿)
- (財)大阪21世紀協会賞 中谷ノボル (水辺の賑わいづくり)
- 石浜恒夫記念賞 演技集団 芝居小舎 (関西演劇人の育成)
- 特別賞 山田良一 (ピンドールによるまちづくり) 中西ファミリー (多彩な芸によるボランティア活動) 白井 達郎 (万博ミュージアム) 吉田 明子 (藤井寺婦人体操クラブ) 難波 りんご (なにわ伝統野菜復活の会)



▲プレゼンターは、New OSK 日本歌劇団の高世麻央さん

▼たくさんの方がお祝いに駆けつけてくれました



▲司会進行は、エフエム大阪の吉川智明さん



▲講師の旭堂小南 陵師匠(右)が受賞者にインタビュー

所にエキスパートが居られ、ここで一句「気がつけば知らぬは私一人かな」な状態。船頭の私の不勉強・自信の無さで、6回以上もの運営委員会を開催し、ご迷惑をおかけいたしました。立ち上げから半月しかなく、募集のPRも不安でしたが、当会の幅広い人脈により、50件以上の応募があり、例年より1週間短い調査期間も優秀なメンバーが難なくこなし、あれよあれよの7月28日。素晴らしい贈呈式を行いましたことを、お礼申し上げます。誠にありがとうございました。振り返って、7回もの開催実績での手慣れた方々のご対応、ご尽力、ご協力、そして熱意によって、「なにわ大賞」が運営されております。その力を以てすれば、来年の第9回は本年以上に素晴らしいものになることでしょう。私にとりましては、メレンゲのジंकウスを払拭したことが、唯一の成果だと感じております。これぞ来年の新幹事さんの登竜門は安泰です。

文/第8回なにわ大賞チームリーダー (株)阪上商店 阪上博通

インタビュー

第8回なにわ大賞受賞 からほり倶楽部 代表 六波羅雅一さん からほり倶楽部は発足から四年半になります。今回、私が代表して受賞しましたが、協力し、応援して、あたたかく見守ってくださった方々、そしてからほりのたくさんの方々のみなさんの力だと思っています。「惣」「練」「萌」といった商業施設をつくってききましたが、商業のまちにしようと思ったのではなく、地域のみなさんとともにこの町の歴史や文化をどう残し、伝えていかに挑戦してきたことが評価されたのだとうれしく思っています。



▲「時空館」のスタッフもパーティの盛り上げに役を買っていただきました



▲第1回受賞の「和太鼓雅」のメンバーは、今や当会会員として大活躍



▲金銀のテープが飛び出し、パーティに花を添えた「ドンパ」協賛: 柳岸本吉二商店



「なにわの海の時空館」で開催選考委員をお願いしている石浜 紅子館長にお力添えをいただき、第8回は「なにわの海の時空館」が贈呈式会場となりました。参加者は、大賞に匹敵する「夕景の美しさ」を堪能しました。

毎年7月28日(ナニワの日)に開催される「なにわ大賞」の受賞式は、贈呈式と書いて「もていさき」と呼ばれています。そして、選考委員長の難波先生が読み上げる賞状の文末には、「あなたにはえらい！」と書かれています。第1回目の時のこと…。町衆が同じ目線で「あんたエライ、よう頑張ったはりますなあ」と称えあうのに、贈呈や授与と言うのはおかしいという単純な疑問がわきました。そこで、もていさきという大阪弁から、「もていさき」というネーミングになったのです。国や行政の賞なら辞退するけれど、そういう趣旨やたら貰いますと言ってくれた方がいるのは嬉しいエピソードです。いちびりとは、ふざけるといふ意味で使われることが多く、「ふざけた意味の大賞なんておかしいのでは？」という投書が届いたこともあり、大阪弁のいちびりの語源は、市場などで値決めをする時の身振り手振りの様から、市振るさま、市振りに由来します。まさに受賞者は、市(いちまち)でリーダーシップをとる人と呼ぶに相応しいのではないのでしょうか。今回を含め、これまでにおよそ80人の「いちびりさん」が選ばれ、9回、10回への期待は膨らむばかりです。

なにわ大賞贈呈式に込めた想い 代表幹事 野村育郎

9月
一般例会

ぼくがナニワのアナウンサー

9/13

寺谷一紀さんは、昭和39年大阪生まれ。小学校から大学まで全て大阪の学校に通い、昭和62年にNHK入局。平成13年、東京への出世栄転を固辞してNHKを退職。フリーのアナウンサーとなった。東京一極集中型のメディアに疑問を投げ、関西の仕事にこだわる硬骨漢である。



▲寺谷一紀さんが「ぼくがナニワのアナウンサー」を話す様子

と読んだ人の話をはじめとして、たくさん真話が紹介され、参加者は大爆笑。

後半は、ナニワへのこだわり論。黒板に「3+500人」と書いて、「NHK大阪支局には500人のアナウンサーが居ましたが、大阪生まれで大阪の学校に通っていたのは私一人だったので」と、大阪を愛し大阪にこだわり続ける心情を語った。私は、黒板の「3+」が気になっていたのだが、閉会してからやっと気が付いた。寺谷さんが書いたのは「3+500人」ではなく、「アナ500人」だったのだ！



▲新入会員紹介/左は梅仙堂の前田要之助さん、右は関ワイ・イー・アールの青木章さん



▲受付は総務部のメンバーが担当。所属しているHAPPYの大槻さんは、懇親会で必ず元を取ります

10月
特別例会

大阪学実践講座2005

10/25



▲作家の武部好伸さん(左)と、金秀吉(キムスギル)監督の熱いトークが繰り広げられた

「ぜんぶ大阪の映画やねん(平凡社刊)」の著者・武部好伸さんと、「千の風になつて」を昨年公開した映画監督・脚本家、金秀吉さんを招いて開催。「夫婦善哉」「泥の河」「悪名」など、名作・問題作が次々と登場。大型プロジェクトにお二人が選んだ大阪の映画のワンシーンが映し出された。また会場内は、会員のほかに各分野で活躍する多士済々の顔ぶれ。進行役の井村チームリーダーともども、大阪ルネッサンスを担うなにわ名物三人衆の熱いトークに、来場者の魂も大きく震える二時間だった。



▲オブザーバー参加も多く、活気あふれる月例会となった



▲織田作之助のこころを語り継ぐ「織田作之助のこころ」を語る織田作之助のこころを語り継ぐ「織田作之助のこころ」を語る

金監督は、織田作之助を主人公に映画制作準備に入っており、そのメモリアルとなるであろう今回の月例会は、非常に意義深いものであった。



▲当日も映写された、「夫婦善哉」のワンシーン

石川史雄のこなひじやはあったらどうです

観光土産の製造卸を営むヤマモト物産は風光明媚な大和郡山の慈光院の裏手にある。同社が販売した、大仏さまの鼻くそは今や奈良を代表する土産物になり、特に修学旅行生を喜ばせている。毎年開発する商品でヒットするのは3割程度というから、このように息の長い商品は開発者冥利につきる。ネーミングと形状で消費者を引き付け、仲間でおしゃべりしながら分け合ってお食べられる点が成功要因だ。



▲(有)経営オフィスB・A・Nの石川史雄がこのコーナーを担当しております

近年の旅行スタイルの変化に伴い、土産の意味合いも変わってきた。隣近所や職場に配るケースが減り、自分への土産やその土地でしか手に入らないものが求められるようになってきた。中身は同じで地名だけを冠した安直な商品が、まだまだ

【第4回】ヤマモト物産

観光土産の製造卸を営むヤマモト物産は風光明媚な大和郡山の慈光院の裏手にある。同社が販売した、大仏さまの鼻くそは今や奈良を代表する土産物になり、特に修学旅行生を喜ばせている。毎年開発する商品でヒットするのは3割程度というから、このように息の長い商品は開発者冥利につきる。ネーミングと形状で消費者を引き付け、仲間でおしゃべりしながら分け合ってお食べられる点が成功要因だ。

だ幅を利かせているが、今後は個性的な本物の商品が選ばれるようになるであろう。地域の特産物をいかに土産物に育てるかが問われる。

会員短信

Cafe Dining Gazebo

辰巳弘子さん(ベラ・グッツィエ)が新しいお店を四ツ橋筋にオープン。朝公園を背景に、安らぎと癒しと食の空間を提案します。40名までの貸切も可。

大阪市西区靱本町1-6-17
Tel 06-6459-2746
11:30~14:30 17:30~21:30

会員紹介

株式会社アイトック

〒580-0006
松原市大堀2-15-35
電話 072-330-8975
FAX 072-330-8985
<http://www.aitoc.co.jp/>
toiawase@aitoc.co.jp

インセンティブ、ノベルティ、プレミアム：横文字の専門用語ばかりでちんぷんかんぷんの広告代理店をはじめとして、カタログをツールとする通販、ギフト業界などに自社オリジナル商品を販売しています。最終的には一般ユーザーに渡るので、俗

に云う販促業界、販促促進をするための仕掛けを商品の分野でお手伝いしています。主な取り扱い商品は、ヘルシーグッズ、ドラえもん工具、ゲーティング、アウトドア、ステーションナリーなどです。自社商品だけにとどまらず、こんな商品は出来るか、あれば出来ないか、と無理難題と向かい合う日々。でも楽しい仕事です。一生懸命頑張つてノウハウを蓄積し、自社商品の開発にも活かされたいと思っております。自社商品が全体の70%、ODM、OEM商品が30%になつ



「イオンDEきぶんでんかんシリーズ(上)かわりらしくて実用性も高い「ドラえもん」の常備灯(右)



ています。生産拠点として中国からの輸入も増加しており、それにつれ広範囲なジャンルでの商品開発も自然に増えてきています。一度問い合わせをしてみてください。

新入会員

- 【正会員】
- (株) 梅仙堂 前田要之助
業おこし・菓子製造販売
 - P・P Company 井? (ピー・ピー・カンパニー パンパン) 寺井 敏幸
 - ジュントレーディング(株) 武田 邦明
ダイヤモンド輸入卸
 - (株) 七田チャイルドアカデミー
 - (株) 日本脳力開発研究所
幼児教育・小学生の(七田式教育)塾 FC展開
藤山 守重

活動報告

商品開発部

現地見学研修会 in 伏見

伏見は徒歩圏内に酒蔵や観光名所が集まり、コンパクトに観光できる町です。月桂冠大倉記念館、史跡寺田屋、黄桜記念館を回り、昔ながらの酒蔵の風情を満喫したあと、十石舟に乗船しま



▲地元酒造メーカーの経営する「鳥せいで鳥のコース料理を堪能。数名は少々酩酊状態です。このあと十石舟に乗るのに…。

参加者コメント



（株）ヤマカワ 山川謙治
酒につられて参加町の魅力に酔いしれました。伏見に港があったので驚きました。京都府にある港は舞鶴と伏見で、どちらも水運の拠点として栄えた町だそうです。伏見夢工房のみなさんが川から自転車やゴミを排除し、十石舟を運航しています。川べりもよく整備されていました。淀川を介して大阪とのコラボレーションも…と、話が膨らんだ一日でした。

した(45分間コース)。研修会のメインは、(株)伏見夢工房の観光担当部長・永山恵一朗さんとの懇談会。同社は、十石舟や三十石舟の運行、食事・お土産店の運営、イベントなどの開催をしています。さらに、地元の商店を巻き込んだ開発商品は100アイテムに及ぶそうです。町の魅力作りとその持続的発展を、実現していく気概を感じました。

文／北出芳久

活動報告

ビジネス交流部

コーヒーの焙煎過程を見学

今年度の部会は、毎回会場を替えて「会社見学&勉強会」というスタイルで開催しています。第一回は、地下鉄八尾南駅から6分の島野珈琲(株)で行いました。コーヒー豆を焙煎する過程の見



▲1階にカフェがあり、焙煎工場では一度に60kgの豆を焙煎できる。2階はレンタルフリースペース。ところで「B4」ってどんな意味？

参加者コメント



（株）イトック 伊藤二郎
会社見学&勉強会内容の濃さに大満足しました。初めての大きな期待を抱いて、初めて部会に参加しました。香り高いコーヒーをいただきながらレクチャーを受け、焙煎機を動かしての説明、それに所先生の難しーい(?)講義と続き、内容の濃い、充実した部会でした。大きな期待が大きな感動へ！大満足できるビジネス交流部会に、ぜひみなさんもご参加ください。

学では、実際に大きな焙煎機を動かして、島野社長が説明を加えてくれました。そのあと、おいしいコーヒーとケーキをいただきながら、「成果主義人事制度」の勉強会。講師は私が担当。コーヒーと成果主義人事制度という妙な組み合わせ…。最初は戸惑っていた参加者も、コーヒーの香りに包まれてリラックスしたようで、親睦も深まりました。

文／(有)リーガルアシスト 所 信昭

活動報告

広報部会

ラジオの生放送を見学

OB C(ラジオ大阪)で、土曜の朝7時から10時まで生放送中の「寺谷一紀の土曜はおまかせ!」のスタジオを見学させていただきました。といっても3時間もおじゃまするわけにはいかな



▲中央が寺谷一紀さん、左が安岡由記子さん。この番組には、当会の会員もたびたびゲストで出演させてもらっています。

参加者コメント



（株）家福 原田勝則
ラジオ局のスタジオで臨場感を味わいました。このような機会でも無い限り、ラジオ番組のスタジオ見学なんて縁の無い話。生放送中のスタジオを、ガラス越しにかぶりつく様に見てきました。視聴者からの質問や大阪ならではの豊富な話題をおもしろおかしく、スタジオから発信している様子が良くわかり、非常に楽しい部会でした。

いので、見学はおよそ1時間。ゲスト出演されていた、関西ジャズ界の重鎮・大塚善章氏とも少しの時間でしたがお話をする機会がもてました。「僕がなにわのアナウンサー」で知られる寺谷一紀氏のモットーと、当会の考え方に共通点があると感じた一日でした。今後、会員の皆さんにもゲスト出演のチャンスがあると思いますよ。

文／(有)サムネット 田中正雄

活動報告

マーケティング研究チーム

「売れる」を実践する勉強会

「売れる」を実践する勉強会。マーケティング研究チームでは、「売」から「売れる」を実践していただくために、勉強会を月一回実施しています。これまでに、新しいお土産の販売企画や某社の主力商品のブランド再構築で目覚ましい成果をあげています。もちろん参加は無料、そうタダです。残念

参加者コメント



（株）長寿堂 山本佳明
業界の枠を超えた発想がピシバシ飛び交います。会社のスタッフと会議室に閉じこもりながら、悲そう顔して企画や商品開発をしても、時間が経つばかりでいいアイデアが浮かんでこない…。その点、「マーケティング研究チーム」では、異業種の方がビールを片手に無責任なことも言い合い業界の枠を超えた発想がピシバシ飛び交うんです。もちろんその場の雰囲気は和やかそのもの。この環境だからこそ、今までにない発想がひらめきますし、人に話をする事により、自分の頭の中にあった企画が整理されていきます。ここで声をあげて言うのではないんだ～(織田裕二バリエ)。「間違いない～(長井秀和バリエ)」。



▲デザインからマーケティング、財務戦略まで幅広いテーマで展開します。まずはメールを！

ながらスペースの関係で定員がありませんので、ご希望の方は、まず、「勉強会参加」とメールを送信してください。

文／(有)なにわ創信舎 原 テルキ